

# 社会科（歴史的分野）学習構想案

期 日 令和3年11月26日（金）第5校時  
 場 所 天草市立新和中学校 体育館  
 学 級 新和中学校 1年1組 19名  
 指導者 新和中学校 教諭 田中 果歩

## 1 単元構想

単元名	第3章 「中世の日本」（東京書籍「新しい社会 歴史」P.62～97）		
単元の目標	(1) 武家政権の誕生から成長の様子，東アジア世界との関わり，天皇・貴族の反乱，民衆の成長，鎌倉仏教の成長など，大きな時代の流れを理解させる。 (2) 畿内を中心とした都市や農村に自治的な仕組みが生まれたというこの時代の大きな変化の原因を，農業をはじめとする諸産業の発達などの視点から考えさせる。 (3) 武士や民衆の活力を背景にして生み出された新しい文化の特色を，代表的な事例を取り上げて捉えさせ，その中で結びつくものに関心を持たせる。		
単元終了時に期待する生徒の姿			
日本の中世では，武士だけではなく天皇・貴族，寺社勢力，民衆など様々な勢力が成長し，相互補完または競合した時代であることについて，根拠をもとに説明することができる生徒。			
指導計画と評価計画（15時間取扱い 本時11／15）			
過程	時間	主に働かせたい見方・考え方と問い	身につけさせたい力 (知・技 / 思・判・表 / 態)
課題把握	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>中世にはどのような立場の人たちがいたのだろうか。</li> <li>中世はどんな時代だったと言えるだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の見通しを持ち，中世はどのような時代であったのか，既存の知識から自分の考えをまとめようと主体的に取り組んでいる。(思・判・表／態)</li> </ul>
	単元を貫く課題：中世は，本当に「武士の時代」と言えるのだろうか。		
課題追究	1次 平安時代末期（武士の台頭）		
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>武士はどのように成長したのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>武士の誕生と成長の過程について理解している。(知・技)</li> </ul>
	2次 鎌倉幕府の成立		
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>鎌倉時代の武家政権は，どのように成立し，成長していったのだろうか。</li> <li>鎌倉時代の民衆は，どのような生活をしていただろうか。</li> <li>鎌倉時代の文化にはどのような特色があるのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鎌倉幕府の成立の過程やしくみを比較し，特徴を理解している。(知・技)</li> <li>民衆の暮らしの変化や，他の身分の暮らしとの違いについて理解している。(知・技)</li> <li>民衆の生活が向上した理由について考え，説明している。(思・判・表)</li> <li>仏教勢力が力を伸ばし，武士や民衆に影響を与えていることを説明している。(思・判・表)</li> </ul>
	3次 モンゴルの襲来と鎌倉幕府滅亡		
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>モンゴルの襲来によって，日本はどのように変わったのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モンゴルの襲来が日本に与えた影響を説明している。(思・判・表)</li> </ul>
4次 室町時代～戦国時代			
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>室町時代の武家政権は，どのように成立し，成長していったのだろうか。</li> <li>足利義満の外国や文化との関わりはどのようなものだったのだろうか。</li> <li><u>足利義満は，どのようにして権力を高めていったのだろうか。(本時)</u></li> <li>室町時代の外交や文化にはどのような特色があったのだろうか。</li> <li>民衆はどのように生活していたのだろうか。</li> <li>応仁の乱によって，社会はどのように変化したのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>室町幕府の成立過程やしくみ，特徴について理解している。(知・技)</li> <li>建武の新政や南北朝の動乱など，天皇が力を高めようとした事象について理解している。(知・技)</li> <li>足利義満が朝廷（天皇や貴族）を利用して権力を高めていったことについて，自分の言葉で表現している。(思・判・表)</li> <li>室町時代の宗教，文化の特色を理解している。(知・技)</li> <li>戦国大名が各地に登場し，新たな社会を創り出していくことについて理解している。(知・技)</li> </ul>	
課題解決	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>中世は，本当に「武士の時代」と言えるのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中世は武士だけでなく，様々な勢力が成長，対立をしながら成立している時代であることを，これまでの学習を踏まえて，自分の言葉で表現している。(思・判・表)</li> </ul>

## 2 本実践のねらいと生徒の実態

本実践（単元）のねらい	
<p>生徒たちが小学校時に作り上げてきた中世日本のイメージは、「武士中心の時代」である。源氏と平氏が戦い、武士が力を付け、政権を獲得したイメージだろう。しかし、中世史で多く支持されている「権門体制論」という考えでは、武士の存在だけで中世が成り立っているのではなく、古代の政治の基礎を作り上げてきた天皇や貴族の存在、仏教をより庶民や武士たちにわかりやすく説いた寺社勢力の存在、惣村など自治的な仕組みを作り上げてきた庶民などの存在も取り上げられている。中世という時代は、それらの勢力がそれぞれに力を付け成長、対立しながら成り立っている時代と言える。</p> <p>本単元は、生徒たちが持っていた「中世は武士の時代」というイメージを転換し、歴史的な見方・考え方を働かせながらこれまでの解釈を疑い、自分なりの解釈をもたせることができる単元だと考えられる。中世に存在した各勢力が、どのように成長し、関わり合っていたのかを、諸資料に基づいて考えさせていきたい。</p> <p>また、「社会科は暗記教科である」という生徒たちの概念を覆し、無批判に情報を受け入れるだけでなく、「本当にそうなのか？」と疑問をもち、得た知識や諸資料をもとに考え、自分の考えを表現させたい。</p>	
本単元における系統	
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>中1「第2章 古代までの日本」 主な学習活動 古代の国づくりについて理解する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%; text-align: center;"> <p>小6「武士の政治がはじまる」 主な学習活動 武士の政権の仕組みを理解する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>中2「第4章 近世の日本」 主な学習活動 全国を統一する幕府の政策や諸産業の発達について理解する。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%; margin: 10px auto; text-align: center;"> <p>中1「第3章 中世の日本」 主な学習活動 武士が台頭し権力を高めていく過程を、他の勢力の様子と比較しながら考え、理解する。</p> </div>	
生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態）	
<p>■本単元を学習に関する意識の状況 <span style="float: right;">（単位：名）</span></p> <p>①社会科の授業で「地理」「歴史」どちらに関心がありますか。また、その理由を教えてください。</p> <p><u>地理（4名）</u>：世界の国々について詳しく知ることができるから。資料を読み取ることが楽しい。 国名や場所など大人になっても役立つ。</p> <p><u>歴史（14名）</u>：好きな時代がある。好きな武将がいる。小学校より詳しく学習できるのが楽しい。 自分が知らない昔のことを知ることができるから。面白いエピソードなどがあるから。</p> <p>②どのような学習形態が学習しやすいですか。</p> <p><u>一斉学習（8名）</u>    <u>グループ学習（8名）</u>    <u>ペア学習（1名）</u>    <u>個別学習（0名）</u></p> <p>③中世の勢力図を書いてみよう。</p> <p><u>武士がトップ（13名）</u>    <u>天皇がトップ（3名）</u>    <u>武士と天皇が同列トップ（3名）</u></p> <p>■考察</p> <p>小学校での学習は、武士が登場し武家政権が確立する流れを学習しているため、中世で勢力を持っていたのは「武士である」と答えた生徒が大半であった。勢力図を見てみると、武士と天皇・貴族は支配者で、寺社勢力・民衆は被支配者であるという認識があることが分かった。</p> <p>歴史の学習に興味がある生徒が多く、また、複数人での学習を好んでいる生徒が多いため、生徒の興味をひく資料の提示や学習活動の工夫に生かしていきたい。</p>	

## 3 指導に当たっての留意点

- 単元を始めるにあたって、生徒の中世に対する意識を確認するため、小学校の知識を活用して勢力図を作成する。武士、天皇・貴族、寺社勢力、民衆がどのような関係であったのか、考えさせる。
- 1次では、武士がどのように登場し、どのように力を高めたのかについて理解を深める。歴史的な事象に関して興味がある生徒が多いため、資料からわかる気づきを取り上げ、武士の役割をつかめるようにする。
- 2次では、鎌倉幕府成立を取り扱い、武士の政権が誕生したことを学習する。生徒の実態から、寺社勢力や民衆は被支配者層であるとの認識があるため、寺社勢力や民衆が力をつけたことがわかるよう、資料を精選する。
- 3次では、モンゴル帝国の成長とモンゴルの襲来について理解を深める。鎌倉幕府はどのように滅亡に至ったのかを説明できるようにする。
- 4次では、建武の新政、南北朝の動乱を扱い、天皇の地位や権力の重要性について理解を深める。その中で足利義満の地位や政治の進め方、外国との関わりなどについて表にまとめる。
- 中世を代表する3人の権力者について、政治、外国との関わりなどの視点をもって比較表を作成することで、それぞれの権力者がどのようにして権力をにぎったかを分かりやすくする。
- 本時では足利義満に焦点を当て、権力を掌握した方法について考えることで、武士だけの力ではなく、天皇や貴族が中世においても、強い権力を持っていたことに気付かせる。
- 教科書の資料を中心に、武士だけでなく、天皇・貴族、寺社勢力、民衆も成長していることが分かる資料を提示し、考えさせる。

#### 4 本時の学習

(1) 目標 中世を代表する権力者を複数の視点に基づいて比較する活動を通して、足利義満が天皇や貴族などの力を使って権力を高めたことを、自分の言葉で説明することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項
導入	7分	1 資料を見て考える。 ① 3人の権力者について ◇清盛、頼朝、義満の絵だ。 ◇義満は変わった格好をしているな。 ② 義満について ◇どちらも豪華な建物でお金持ちのようだ。 ◇日本国王だなんて、天皇より上なのかな。 2 学習課題を知る。	○小学校や今までの授業で目にした写真を活用し、テンポ良く振り返る。 ○花の御所、金閣の写真から義満の栄華を、「明成祖勅書」から明の皇帝に日本国王という扱いを受けていたことを知る。
<b>【学習課題】 足利義満は、どのようにして権力を高めていったのだろうか。</b>			
展開	20分	3 義満と清盛・頼朝を比較し、義満がどのようにして権力を高めていったのかを考える。 ① 個人で考える。 ◇義満は、武士として政権を安定させたんだな。鎌倉幕府の仕組みを利用したからだろう。武力を利用した。 ② 班で考える。 ◇倭寇を取り締まって日明貿易を行うことで、莫大な利益を得た。経済力が上がった。また、日明貿易を行うことで、皇帝から日本国王と認められるようになった。 ◇武士の頂点に立つだけでなく、朝廷の頂点である太政大臣の役職に就いていることから、朝廷(天皇)の力を利用して権力を高めた。 ③ 全体で共有する。 ◇中世にも力を持っていた天皇・貴族の力だけでなく、貿易に着目して経済力を付けるなど様々な力を利用しながら権力を高めていったからこそ、義満は安定した政治を行えた。	○今までの授業で作成したマトリクス図から、義満と清盛・頼朝を比較し、共通点・相違点に気づかせる。その際は、「なぜそのようなことが分かるのか」と問い、これまでの学習で活用した資料等を根拠として挙げさせる。 ○課題について個人で考え、根拠となる資料を探し、発表ノートにまとめさせる。その後、班で意見交換をしながら、班の意見を発表ノートに1つにまとめさせる。  ○平氏や源氏が天皇の子孫であったこと、鎌倉幕府を開いた場所は平安京をモデルにしていたこと、義満が公家様式の花押を使っていたことなどを提示し、天皇・貴族に力があり、その力を武士も認めていたことに気づかせ、意見に深まりを持たせる。  ○これまでの学習活動でも取り入れてきた勢力割合などにもふれながら、様々な勢力の力が伸びてきたことに焦点を当てる。
	13分		
終末	10分	4 学習課題に対する考えをまとめる。	
		<b>【まとめ】</b> 足利義満は武家の頂点である征夷大將軍に就くだけでなく、朝廷の頂点である太政大臣に就くことで公家の力も利用して権力を高めた。さらに日明貿易を行うことで、莫大な利益を得るとともに皇帝から日本国王として認められるようになった。	
		5 振り返りを行う。 ◇言える…天皇・貴族の信頼を得て、武士の政権をつくり、武士を統率しているから武士の時代と言える。 ◇言えない…武士の武力だけでのしあがっただけではなく、天皇・貴族の権力や他の勢力の力を利用して武士だけの時代とは言えない。	○これまで授業後に行ってきたように、現時点での「武士の時代」と言えるかどうかの振り返りを行う。 ○今後も中世がどんな時代であるのか、様々な視点で学習していくことを伝え、次時につなげる。

(3) 本時の評価

評価の観点	評価基準 (予想される生徒の発言・記述)
思考・判断・表現	A: 足利義満が朝廷(天皇や貴族)を利用したことに加え、貿易による経済力や寺社の権威など多様な勢力を利用して権力を高めていったことについて、自分の言葉で説明している。
	B: 足利義満が朝廷(天皇や貴族)を利用して権力を高めていったことについて、自分の言葉で説明している。